

『INCHの楽しい仲間たち』 vol.8 その7

ニュージーランドで湯治（その1）

佐伯 順弘（岐阜県）

DAY1（08AUG2013）岐阜→成田→機内泊

台湾から帰国して、新しい勤務地に配属された。森に囲まれた水のきれいな場所だ。林業が盛んで、人と自然との親和度が高いと感じる。

そこで、環境教育を実践的にやることができることは幸せなことだ。しかし、1つ心配なことがあった。ほんの数年の海外生活によって、自分が奴隷ではなく、労働者であることに気づいてしまった。いくら特別手当をもらっているからと言って無制限に超過勤務を強制されることに耐えられなくなってしまったのだ。（超過勤務の時給は約70円である。）若手の頃、給料分の仕事すらできていないと感じた自分が自主的な労働時間の延長により、給料分の仕事をやりきっていたのはやむを得なかったのだと今でも思う。修行の割合があまりにも大きかったからである。しかし、給料分は十分仕事ができるようになった今、自ら奴隷働きに進むことに対して疑問を持たないわけにはいなくなった。この状態は、今の日本において非常に居心地が悪い。滅私奉公、身を粉にして働く、この勤勉さが日本人の美德である以上、奴隷働きを拒否する思想はとても危険だ。多くの人々には受け入れられないだろう。あの人気ドラマ「〇町〇〇ット」にさえ、定時で帰る社員に対して非難するシーンが出てきたではないか。そのとき、日本人の大部分が労働者として当然の権利を行使しようとする社員に対して、非難の声を上げる〇内くんが賛同したのではないか。人それぞれの事情があり、仕事のために生きているのではなく、自分が生きるために仕事があるのだ。それを労働者は忘れてはいけない。そして時給意識を高め、より効率的に最大限の成果を出すように仕事をすべきなのだ。そんなわけで、この悶々とした日々の中で精神崩壊を防ぐためには「旅」が必要だった。本来の自由な自分は旅の中にしかないのかもしれない。年1回ないし2回の旅によってなんとか精神崩壊を防いでいると断言できるのである。

まるで宮本さんの話のようになってきたが、

この話は旅行の話である。単なる物見遊山のゆるい内容だった。今回の旅は数年来の旅仲間 K との二人道中である。4月からなんとなく、方向を考え、航空券、現地状況、宿泊施設を調べて、7月1日には航空券確保。その後、宿泊施設も確保した。学生時代は行き当たりばったりで、宿泊先を決めるなど愚の骨頂とバカにしていたが、とにかく時間と体力が有り余っている学生ならば一日宿探しに費やしてもいいが、短い休暇しか取れない身では時間を有効に使うことが求められるのでサラリーを得るようになってからは行き当たりばったりはやめた。しかし、宿泊は相変わらずユースホテル中心である。0530 楽しみで早く起きてしまった。出発日の朝からパッキングである。海外旅行、キャンプなどの作戦行動において海兵隊並みに即応体制ができていたので出発3時間前からのんびりは始める準備で十分間に合うのである。これも前回の作戦が終わってから装備点検、整備を怠らない冒険探検部時代からの習慣である。（ちなみにそういう習性を持っている部員はきわめて稀ではあった。）

1100 自宅発。途中の駅で K と合流。今回は成田発なので、新幹線で移動である。JR 高山線が遅れるとの情報が入った。最初から計画破綻かと思われるが、なんとか進みそうだ。中部国際はなんだかんだ言ってそれほど便利ではない。

1630 成田着。計画通りすぐチェックイン。両替の場所を比較検討するのも面倒だったので、空港でさっさと済ませることにした。状況によって、街中の両替屋の方がいい場合もあるのだが、学生ほど金には困っていない。俸給をいただくものの強みである。JP¥49740 が NZ\$580 となった。NZ\$10 で JP¥850 と頭に入れる。これをしておかないと、金銭感覚が狂う。

ラウンジでビールを飲んだり、メモを取ったりした後、出国審査を経て機内へ。

1930 テイクオフ。この飛び立つときの加速が気持ちいい。気持ちよくてつい寝てしまうくらいだ。成田からニュージーランドのオークランドまで

10時間くらいのフライト。



夕食を食べて、映画を観て寝る。



DAY2 (09AUG2013) オークランド→

そして、朝食を食べたら、もう到着。日本時間 0400。約 9 時間 45 分のフライトは航空機好きとしてはあっという間であった。

日本時間 0515=ニュージーランド時間 0815

****ニュージーランド時間に変更****

0815 オークランド着。寒い。南半球なので、日本の夏休みに旅行すれば季節は冬だとわかっていたが、それでも寒い。避暑に来てはみたが、あまりにも寒すぎてびっくりである。ともかく空港を探索し、すぐ市内行きのバス乗り場を発見。NZ\$16。バスもすぐ来て、市内へ。

1030 オークランド市内から Whangarei ファンガレイ行きのバスを首尾よく発見し、さっそく乗り込む。ファンガレイには特に用事はないが、そこから Kauri Coast カウリコーストへ向かうための中継地として1泊する。

バスで惰眠をむさぼっているうちに、中継地点のファンガレイに到着。それにしても日本以外の国のバスは臭くないのか。日本のバスは基本的に独特のバス臭がする。幼少のころそれが乗り物酔いの引き金になったものだ。社会見学でバスのドアが開いてその悪臭が押し寄せた瞬間、バスは1ミリも動いていないのに既に乗り物酔いである。のど元まで朝食が上がって来たものだ。ところがニュージーランド

のバスはどうだ。まったくそれを感じさせないではないか。海外旅行をするようになってから安くて快適で移動している実感のあるバスが好きになっていた。ファンガレイの街に到着し、小さな地図を頼りに街を探索しつつ、徒歩で宿に向かう。

1400 今夜の宿泊施設であるバックパッカーズ Hostel「バンクダウンロッジ」に到着。



チェックイン。2人部屋で1人30×2+デポジット20。荷物を置いて、日が暮れないうちに更に街の探索に出かける。売店でパンを買う。



このホステルは平屋建てなのに多くの部屋とその近くにキッチン兼ねたラウンジがあった。玄関わきに管理人の老夫婦の部屋があり、ゲストルームは奥に。キッチン兼ラウンジには観光パンフレットやコーヒーが置いてあり、広くて快適だ。他にも宿泊客がいたが別のラウンジにいたようだ。それほどの運動量もなかったが、明日はロングドライブなので早々に寝た。

DAY3 (10AUG2013) ファンガレイ→

0800 若干、時差ボケか。(日本時間 0500) しかし、疲れてはいない。昨日買ったパンの残りといんスタントコーヒーで朝食を済ませ、レンタカーを受け取りに行く。もちろん、日本で予約してあったし、国際免許証も持ってきていた。レンタカーに乗り、まずはスーパーマーケットをさがす。当然のことながらすぐ発見。そこで水やスナックを買い、カウリコーストにあるワイポウア・カウリ・フォレス

トを目指す。カウリとは南太平洋に育つナンヨウスギの一種でとんでもない巨木に育つという。その樹木たちに会いに行くのだ。車は日本と同じ右ハンドルで左側通行なので運転に不安はない。もちろん、アメリカ、台湾では右側通行になれていたもので、どちらであっても不安はない。天気は曇り空であるが、いかにも冬という感じがかえって落ち着いた感じだ。冬なのにしっかりとっている。



1200 水とスナックを摂取していたので、特に空腹感はない。目的地のワイポウア・カウリ・フォレストに到着。



巨木の森。特に大きなものには名前がついている。このタネ・マフタは「森の君主」とあるという解説があった。とにかく、大きい。根を傷つけないように、遊歩道を外れてはならないとの注意書きがあった。とにかく、大きい。遊歩道の制限もあり、全体を写真に入れるのが困難だった。



このような巨木な何本もあって、それぞれに名前がついていた。

他にも、シダの一種であろうか、4メートル以上もある巨大な植物が多くあった。

巨大植物群に圧倒され、太古の森に来たような気になってしまった。



ただ、この森も造船などに使われ伐採された結果、20世紀初頭までには当時の数パーセントが残されるだけになったそう。現在は遊歩道が整備され、保護される対象となったものの復活させるには人間の寿命はあまりにも短い。

巨大生物（樹木）に圧倒されたまま、レンタカーで帰途に就いた。



どんよりとした曇り空の下、時間の感覚さえおかしくなっていた。レンタカーを返す時間が迫っていたのだが、そんなことも考えず、いろいろ寄り道をしながらカウリコーストからファンガレイまで戻ってきた。朝、水とスナックを買ったスーパーマーケットで夕食の材料を買い、ガソリンを満タンにしてレンタカーを返しにいった。既に事務所は閉まっていたが、「ここに鍵を入れとけ」という指示があった場所に鍵を入れた。割とアバウトで助かった。スーパーマーケットの袋を手提げ、徒歩でホテルに戻る。



ちなみにレンタカー代は保険など込みで、終日使って約1万1000円だった、約300km走行して、ガソリンは約4400円でやや高い。ガソリン消費量は23.690Lだったので185.7円/Lということになる。ちなみに夕食に買ったニュージーランドビーフは680gで700円であった。何にしても肉が安いということなので、ニュージーランドにいるうちは肉を積極的に食べようかと思った。

1800 宿に戻って、すぐ夕食の準備に取り掛かった。昼食をほぼポテチで済ませていたので、かなり空腹だった。メニューはステーキとパンとビールという大変簡単かつ素早いものに決めて、食糧を買っていた。素材の味を生かすため、フライパンで軽く焼いた。海外の肉は脂身が少なく硬くなりやすいため、あまり焼いてはいけないと聞いたことがあった気がしたからだ。



ヨーグルトは明日の朝用。パンも少し食べるが、

基本明日の朝食用。写真にはないがサラダも買っている。常に栄養バランスを考えて食べないと体調を崩すことにつながりかねない。



なかなかおいしそうに焼けたではないか。約300gのステーキが約300円。うーん、さらにはいいではないか。



次回は DAY4 (11AUG2013) ファンガレイから温泉地であるロトルアへの旅である。(つづく)